

《演奏会報告》

(令和3年度)

2021年度 演奏活動報告

アンサンブル、効率の良い金管楽器の練習法、 トランペットのための作品研究

上田 仁

2021年度は6回の試演会を行った。コロナウイルスの感染拡大により、昨年度に引き続き今年度も学外公演の機会が激減したため、学生のモチベーションを保つため、試演会は大変重要な役割を担うことになった。回が進むごとに参加者が増え、スキルアップが感じられたのはうれしいことであった。会が終わると、教員からの講評があり、参加者全員熱心に聞き入っていたのが印象的であった。以下は全6回の詳細である。

めいおんトランペットメイジャーズ

第一回試演会

～めいおんトランペットメイジャーズメンバーによる～

村田香菜子 Concert piece No.1 op11 V.Brandt/杉浦遼馬

植本莉央 Konzert A.Arutjunian/盛田眞琴

國枝航大 CONCERTO for Trumpet and Strings in E flat major J.Neruda/市居宥香

高野楓 Orchestrer Probespiel

2021年4月13日（火）18：30開演

名古屋音楽大学 C101教室

大学主催定期演奏会、オーケストラソリストオーディションの予行演習として、4年生の村田、植本、國枝が、学外オーディションの予行演習として、研究生高野がオーケストラスタディを演奏した。そのうち植本はコンサート出場は叶わなかったが予選は突破し、試演会の成果を見せた。高野も学外のオーディションを突破し、浜松にあるジュニアオーケストラの講師に選ばれた。

第二回試演会

高柳亜緒衣 ソナタ E.Ewazen/江野藍子
 西田宗正 オーケストラスタディ
 村田香菜子 協奏曲 J.Haydn/久保田初音
 佐々木花恋 幻想曲 J.EDBarat/山本紗羅
 柳楽円香 小協奏曲 A.Jolivet/久保田初音
 森川春香 協奏曲第一番 A.Goedicke/江野藍子
 中山颯太 協奏曲 A.Tomasi/小杉有香
 上田じん ラプソディインブルー G.Gershwin/江野藍子

6月3日（木）17：50開演

名古屋音楽大学 C101教室

2021年は日本音楽コンクールが行われるということもあり、多くがその課題曲を試演した。西田はオーケストラスタディを無伴奏で演奏した。上田は翌日収録予定である楽曲を演奏した。

第三回試演会

森川春香 トランペット協奏曲 ゲディケ/江野藍子
 柳楽円香 演奏会用小品第一番 ブラント/久保田初音
 高野楓 トランペット協奏曲より第一楽章 ハイドン/久保田初音
 村田香菜子 トランペット協奏曲 ジョリヴェ・ハイドン/久保田初音
 中山颯太 トランペット協奏曲 トマジ/小杉有香
 西田宗正 トランペット協奏曲より第一楽章 モーツァルト/久保田初音
 安藤百華 スラヴ幻想曲 ヘーネ/江野藍子
 上田じん トランペットのためのソナチネ/アポステル

7月1日（木）

17：50開始

名古屋音楽大学 C101教室

第三回目の試演会の日本音楽コンクールの課題曲の試演が多かったが、その他のコンクー

ル課題曲や研究リサイタルのための試演を行った学生もいた。

第四回試演会

高野楓 トランペット協奏曲より第一楽章 L. モーツァルト/築山茉以

Concert piece No.1 V.Brandt/築山茉以

村田香菜子 Concerto H.Tomasi/築山茉以

高柳亜緒衣 INTRADA O.Ketting

中崎桃香 Thirty-two EtudesNo.3 Hering

西田宗正 径

安藤百華 36ETUDES TRANSCENDANTES No.2 T.Chalier

上原陸 Cantabury J.L.Hosay

佐々木花恋 OLYMPUSDouglas Conrt

三宅結 VINGT ETUDES No.6 M.Bitsch

上田じん パラブル V.パーシケッティ

7月22日(木)

17:00開始

名古屋音楽大学 C101教室

春学期実技試験直前ということもあり、試験曲を試演する学生が多かった。研究生は音楽コンクールの課題を、4年生は卒業試験に向けた準備をしていた。

第五回試演会

安藤百華 スラヴ幻想曲 ヘーネ/久保田初音

國枝航大、中山颯太、上原陸 ラデツキー行進曲 J.シュトラウス

三宅結、安藤百華 Silent Sorrow Bivonac Song J.B.アーバン

佐々木花恋 RIUSTIQUES E.ボツザ

めんず☆ふあいぶ(西田、三宅、中山、上原、國枝) Cyclone

11月24日(水) 18:30開演

名古屋音楽大学 A403教室

学外コンクールのための準備と、アンサンブルを楽しんだ。

第六回試演会

村田香菜子 トランペット協奏曲 O.ペーメ/久保田初音
梶山由美 トランペット協奏曲 T.アルビノーニ/久保田初音
安藤百華 スラヴ幻想曲 K.ヘーネ/久保田初音
三宅結 ファンタジー サンサーンス/佐藤天徳
中山颯太 トランペット協奏曲 O.ペーメ/小杉有香
上原陸 コンクールのための小品 G.ユー/石貫駿
高柳亜緒衣 トランペット協奏曲 A.アルチュニアン/荒尾千裕
佐々木花恋 ルスティークス E.ボツザ/山本紗羅
西田宗正 トランペット協奏曲 H.トマジ/田本将也
安藤百華 アーバンスケール、コプラッシュ、シャリエ
國枝航大 トランペット協奏曲 H.トマジ/市居宥香

2022年1月18日（火）16：30開始

名古屋音楽大学 C101教室

秋学期実技試験の準備、他大学受験の準備のための試演会。トランペット協奏曲が6曲も演奏され、意欲的なプログラムとなった。

2021年度 演奏活動報告

大岡 訓子

「13th ピアノ コンサート エクセレント」

2021年 9月4日（日） 開演13:30 電気文化会館

クラヴサン曲集 第3巻 第18組曲 No.18-3 修道女モニク F.クーブラン
ノクターン ロ長調 op.9-3 F.ショパン

F.クーブランのクラヴサン曲集 第3巻 第18組曲には7曲の作品が含まれており、その第3曲がSoeur Monique 修道女モニクである。クラヴサン作品は、現代のピアノ、ホールで演奏する内容は作曲された時代とは異なるが、バロック期の多声感と弱音の幅を表現できる、穏やかな美しいへ長調作品である。ABA形式。この第18組曲には 第6曲 Le tic-toc-choc, ou Les maillotins（テイク トク ショック、またはオリーブ絞り機）も含まれており、演奏の機会の多い作品である。

演奏したノクターン op.9-3は、3つのノクターン作品9に含まれており、楽譜には Allegretto と表示され、Scherzando と記されている。ABAコードの三部形式。中間部は同主調のロ短調となり、Agitato 表記の内容となるが、作品としては6/8拍子でリズムミクな面と美しい旋律が歌われる作品である。

第22回 めいおん室内楽コンサート

2022年2月26日（土） 開演13:30 名古屋音楽大学めいおんホール

スラヴ舞曲第1集 第2番 op.46-2 ホ短調 A. ドヴォルザーク
スラヴ舞曲第2集 第2番 op.72-2 ホ短調
連弾 共演者 金山 正一

ドヴォルザークのスラヴ舞曲集は、第1集 第2集ともに8曲から成っている。作曲にあたっては、ブラームスの仲介を経て出版社ジムロックの依頼によりピアノ連弾用にかかれ、その後 オーケストラ作品としても完成している。このスラヴ舞曲集は、ボヘミア民

謡、舞曲の特徴を生かした芸術作品である。どの作品もボヘミアの舞曲様式が基になっている。

op.46-2 (1878年作曲)

Allegretto scherzando 2/4拍子 ホ短調

ドゥムカ、哀歌のように感じられる旋律は、多声で変奏されながら繰り返し現れる。Allegro vivo などのテンポ表示や、rit. も多く記されている。スケルツァンド的な要素には土着的な民族舞踊が基になっている。

op.72-2 (1886年作曲)

Allegretto grazioso 3/8拍子 ホ短調

冒頭の molto espressivo と表記された、スラヴ舞曲集の中で特に有名な作品。郷愁的な主旋律が最も魅力的な作品であり、中間部は舞曲風要素が含まれている。

2021年度 演奏活動報告

小櫻 秀樹

2022年3月15日（火）

“Night of Meion Percussion with Unheard Music” by meion composers で
初演される “Dual Impro” for percussion and live-electronics について

A NIGHT OF MEION PERCUSSION WITH UNHEARD MUSIC

BY MEION COMPOSERS

2022年3月15日（火） めいおんホール

開演 18:30 (開場 18:00) **入場無料**

新型コロナウイルス対策のため、ご来場の際はマスクの着用をお願いいたします

PROGRAMME

"Fog" for Marimba and Electronics Mar 成林	石黒和雅
万象 Per1 清原幹七季 Per2 北野隆規 Per3 河村健志 Per4 西村雅	薄楽来
出陣 野大智 清原幹七季 野大智 北野隆規 西原太郎 河村健志	湯逸飛
人魚の歌 Glock 高橋裕 Mar 高橋裕記 Vibraphone 西村雅 Xylophone 亀山信貴	大石彩音
百鬼夜行-夕嵐 Per1 亀山信貴 Mar2 高橋裕記 Xylophone 西村雅 高橋大輔 高橋大輔 大輔1 北野隆規 高橋大輔 高橋大輔 大輔2 清原幹七季 Per 河村健志	林卓然
"Dual Improvisation" for Small Percussion Instruments + Live Electronics Ds 河村健志	小櫻秀樹
Morphing Per1 北野隆規 Mar2 高橋裕 Per2 清原幹七季	石川泰昭
3 shapes for 2 Marimbas Mar2 高橋裕記 Mar2 亀山信貴	武野晴子
混元 Per1 河村健志 Per2 北野隆規 Per3 清原幹七季 Per4 西村雅 Xylophone 高橋裕記 Mar 亀山信貴	高橋裕

Event Flyer

以前より、打楽器コースのほうから電子音響を用いた作品の演奏に関心のある学生が多いという話を聞いていた。そこで、作曲コースより教員と学生が打楽器を使った新作を書いて演奏してもらうというプロジェクトを打楽器コースの高藤摩紀氏にオファーしたところ、全面的な協力を得られることになりこのプロジェクトが実現した。

これまでも打楽器のための作品を書いてきたが、電子音響を伴う作品は1つもない。大学にいるという環境は作曲家にとって大変恵まれている。幅広い空間を持つホールを自由に使うことができ、演奏者と頻繁にあってサウンドチェックを行うことが可能なだけでなく、作曲者が描いているイメージを演奏者に直接伝え、実際演奏してもらうことにより自分のイメージに近づけることができる。時には演奏者からもらう『アドバイス』によって、描いていたイメージを遥かに超越する良い『音』が生まれることさえある。

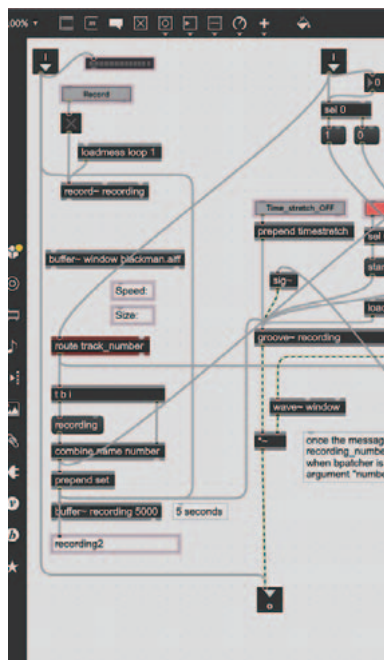
私はここ数年、Maxを使ったライブエレクトロニクス音楽を研究テーマとしている。

Maxは、Max/MSP/Jitterとも呼ばれ、アメリカのソフトウェア会社Cycling '74によって開発された音楽とマルチメディアのためのビジュアルプログラミング言語で、現在はAbletonの傘下にある。作曲家、演奏家、ソフトウェアデザイナー、研究者、アーティストがレコーディング、パフォーマンス、インスタレーションを作成するために使用している。

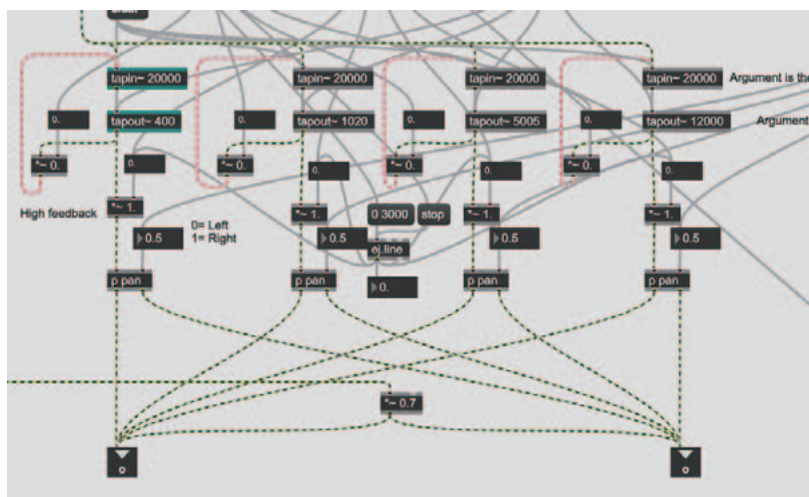
ビジュアルプログラミング言語（ビジュアルプログラミングシステム、VPL、またはVPS）は、ユーザーがプログラム要素をテキストで指定するのではなく、グラフィカルに操作してプログラムを作成できるプログラミング言語である。Maxはプログラムの構造とGraphical User Interface（GUI）の両方を同時に表現するこの拡張可能なデザインのため、Maxはinteractiveな音楽演奏ソフトウェアを開発するための共通言語であり、DAWなどほかのアプリケーションとの親和性が高いのも魅力である。

この作品における特徴は、打楽器奏者と私のinteractiveな即興演奏である。この即興演奏を可能にするためのシステムをMaxで作成した。主な機能は、real-time granular synthesis（微小な音の時間スケールで動作する音響合成手法）、multiple-delays, distortion, filterそしてpanである。granular synthesisについての特徴を述べるとすれば、低速で再生した場合、自然音のサンプリングや他の合成技術とは異なる方法で操作可能な、しばしば雲と表現される一種のサウンドスケープとなる。高速で再生すると、新しい音色の音符として聞こえる。波形、エンベロープ、時間、空間的な位置、粒の密度を変化させることで、さまざまなサウンドを作り出すことができる。Maxを用いたライブエレクトロニクスと生楽器による即興演奏は私にとって初めての経験になる。どの打楽器を使って演奏するかを、演奏者との音出しの打ち合わせを何度も重ね、それぞれの楽器による電気信号の時間的な変化を作り出す音響合成がどのようなものになるのかをテストしている最中である。楽器との演奏者同士が即興的に演奏を行うセッションは、楽譜に書かれた通りに演奏

する 作品形態とは違った独自の面白さがある。その面白さ、ユニークさの要因の一つとして考えられるのは、何が起るか演奏者も聴衆も予想できないハプニング的なものがある。また楽器のためのみに書かれた作品と異なり、Maxを使用した音楽では、生楽器ではほぼ実現不可能な音響、リズム、フレーズ、そしてありとあらゆる『サウンド』を生成する可能性がある。楽器では実現不可能と思われるフレーズや音響、リズムなどを生成する可能性がある。



real-time granulation system



Multiple-delays system

2021年度 演奏活動報告

佐藤 恵子

2021年5月28日（金） 18:00 開場 18:30 開演

ザ・コンサートホール（電気文化会館）

愛知ロシア音楽研究会第12回演奏会

「プロコフィエフ生誕130年記念」

〈ソロ〉

「三つの小品」Op.96より

プロコフィエフ作曲

No.1 ワルツ（オペラ〈戦争と平和〉より）

No.2 コントラダンス（映画〈レールモントフ〉の音楽より）

No.3 メフィストワルツ（映画〈レールモントフ〉の音楽より）

〈伴奏〉 笥聰子（メゾ・ソプラノ）

「ロシア民謡編曲集」Op.104より

No.4 カテリーナ

「プーシキンの詩による3つの歌曲」Op.73より

No.1 松

2021年6月13日（日） 13:30 開場 14:00 開演

四日市文化会館 第2ホール

名古屋音楽大学同窓会 第2回三重支部演奏会

〈ピアノデュオ〉 松下寛子（名古屋音楽大学講師）

「組曲第2番」Op.17より

ラフマニノフ作曲

No.3 ロマンズ

No.4 タランテラ

2021年10月29日（金） 13:30 開場 14:00 開演

めいおんホール

第9回めいおん音楽祭「声楽教員コンサート」

〈伴奏〉 小林史子（ソプラノ）

L'ultima ebbrezza 最後の陶酔

レスピーギ作曲

「Quattro Liriche/4つのうた」より Sopra un'aria antica 昔の歌に寄せて

2021年12月3日（金） 18:00 開場 18:30 開演

ザ・コンサートホール（電気文化会館）

愛知ロシア音楽研究会がお届けする「ロシア万華鏡2021」

〈ソロ〉

「四季」12の性格的描写 Op.37bis チャイコフスキー作曲

9月 狩（詩・プーシキン）

10月 秋の歌（詩・トルストイ）

11月 トロイカで（詩・ネクラソフ）

12月 クリスマス（詩・シユコーフスキー）

〈伴奏〉 木村洋子（メゾ・ソプラノ）

もえよ、もえよ私の星よ ブラーホフ作曲

〈伴奏〉 笥聰子（メゾソプラノ）

夜は輝く シシキン作曲

愛知ロシア音楽研究会の活動は作品紹介の意義が大きく、コロナ禍の中、多くの聴衆に恵まれ、生演奏の大切さを実感致しました。名古屋音楽大学同窓会三重支部の演奏会は卒業後も研鑽を続け、舞台上で演奏すると言う、本学の原点が確認できる機会となりました。また第9回めいおん音楽祭の久しぶりの「声楽教員コンサート」は、皆さん実力派の方々ばかりで、とても楽しいひと時でした。ピアノ実技教員として、今後も演奏は続けていきたいと思えます。

2021年度 研究活動報告

清水 皇樹

私が本学で力を注いでいるのは、普段のマンツーマンの個人レッスンの積み重ねであるの言うまでもないが、それと同時に「ピアノ演奏理論」「ピアノ指導法講座」という授業もここ数年力を入れて研究している。

「ピアノ演奏理論」ではショパンのマズルカを取り上げ、マズルカ特有のリズム感、ルバートを含めたショパンの演奏法を全体的な講義として授業を展開している。

また「ピアノ指導法講座」では小中高生を対象としたピアノ指導法を模擬レッスンを何回も学生達にさせ、またそれを聴く学生達が客観的にどうしたらより良い指導法となるか意見交換をさせている。

これらの授業をさらに充実させるためには、普段の私の演奏や指導法を常に磨く必要がある。

今年も、1年間の研究成果を発表する場として12月26日に三井住友海上しらかわホールを取って、「門下生ピアノ演奏会」を目標に設定しそれに向かって研究を進めた。

実際に、1年間という期間の中で定期的にいろんな年代、いろんなタイプの生徒のレッスンをして、その中で感じること、反省点、成果などを具体的に「ピアノ指導法講座」の授業に取り入れて、本学の学生達に伝えるように努めた。

一番痛感したのは、指導するにも何故そのようにしなくてはいけないのかという裏付けをしっかりと生徒達にわかりやすく説明できなくてはならないということだ。

「音楽的に」「何故」というのがキーワードと思われる。

学生達が模擬レッスンをして、「ここはクレッシェンドだからもっと大きくして」とか「ここはもっとレガートに歌って」という感じに留まってしまう。

そうすると大して音楽的に理解できてなくても先生の言葉を機械的に捉えるだけでただ単に大きくしてそれで終わり。

「何故」大きくしなくてはいけないのか、大きくすることで「音楽的に」どうなるのか？あるいはどうしたいのかがわかっていない場合が多い。

レガートに歌ってという指示も実はすごく曖昧で、レガートって響きとしてはどんな響きなのか、それに伴うタッチはどうするのか、歌うとはどんなふうに歌えばその場所に音楽的にふさわしいのかは、より深く、細やかに生徒に具体的に「イメージ」出来るか出来ないかが非常に大切であると考え。

生徒がいかに関具体的に音楽的なイメージを持てるのが、先生の真似に終わらず、初めて生徒主体の自発的な表現に繋がると今回強く思えたことである。

それには、指導者側がいかに関音楽的なイメージを沢山持っているか、楽譜をいかに関音楽的に読む力を備えているかが極めて重要であると痛感した。

生徒をより良く指導するという事は、実は自分がより良く演奏するという事に直結しているのだ。生徒をどう教えたなら上達するかを一生懸命考えてあげるとするのは、自分の演奏に対してもその考え方は生きてくるのである。

年代もそうだが、生徒にもいろんなタイプの生徒がいて、同じ言葉でも通じる生徒と通じない生徒もいる。では通じない生徒にはどういう言い方をしたら理解してもらえるかをまた考えなくては行けない。

とにかく指導する側が心の中に沢山引き出しを持っていないと行ならないのだ。

もう一つ重要なのは、作曲家によってスタイルがそれぞれ違うという様式感を指導するのはとても難しいし、極めて大事な指導法である。

バロック、古典、ロマン派など、それぞれの時代によってスタイルが違う。

この様式感は私自身のヨーロッパ留学経験からいかに関重要であるかを思い知らされた。

これには西洋音楽史的な知識がどうしてもベーシックに必要であると考え。

そのために私は本学で「西洋音楽史」という授業も担当させていただき、学生のその重要性を常に伝えているつもりである。

例えば、バッハの音楽を理解、表現するためには、バッハより前の時代の音楽を理解している必要がある。

中世のグレゴリオ聖歌やルネサンス時代のパレストリーナを知らなくてはバッハはあり得ないのだ。それらの音楽の延長線上にバッハの音楽が花開いていることを知識と一緒に感覚的にも理解させることは生徒の演奏にも必ず役に立つ。

それらを総合的に1年間続けてみて、今年もしらかわホールで実際の舞台で自分自身の研究成果を生徒達の演奏を通じて感じる事が出来た。

やはり、本番の演奏を通じて日々伝えたことが十分に伝わっていたか、まだ不十分だったかが初めて分かる。

演奏は奥深いものであり、毎回ある種の達成感とともに、まだまだだなあと感じる事が沢山ある。

私は今後もこの同じ研究をずっと継続的に行っていきたい。

来年度も、また違う先生方の指導法、演奏法も見たり聴いたりして多角的にまた研究を続けるつもりである。

三井住友海上しらかわホール

第13回 清水皇樹・清水敦子
門下生ピアノ演奏会

2021.12.26(日) 入場無料
開場10:30 開演10:45

三井住友海上しらかわホール
〒460-0001 愛知県名古屋市中区栄1-1-1



Program
ショパン:バラード 第1番
リスト:スベイン狂詩曲
スタサヴェービシ:ソナタ 第7番 白1オ.
ラヴェル:我がカスパール 他

10:45開演
三矢典幸 松岡暁 渡辺謙太郎 清水大輝 藤田真琴 浅井美由己 小川祐希 沖古葉々綺 片平海来

11:12:45開演
真家賢 石坂なつみ 鎌倉聖也 福地幸太郎 伊藤詩乃 田中友梨 横倉雄 橋本実智 小西さくら

12:00開演 (清水皇樹 清水敦子 講師演奏)
大方一彦 宮内聖希 野村輝希 原菜月 石川美奈 角谷幸奈 佐藤天祐 神尾雅治 清水輝子 (Vr.)

17:20開演
石橋光志 神原祥佳 斎藤良希 志田聖介 志村賢吾

18:50開演
渡辺謙太郎 岡田清花 上田実季 渡辺謙吉

お問い合わせは052-734-1111
www.threefriends.or.jp

～ご挨拶～

第13回 清水皇樹 清水敦子 門下生ピアノ演奏会にご参加いただき感謝にあらびたいと思います。
今回は武山の演奏会、このしらかわホールという素晴らしい空間の中でお届けしたいと思えます。
(一日遅れのクリスマスプレゼントです)

「音楽」とは私達の人生においてどんな存在なのでしょう
何故こんなにも人は「音楽」に惹きつけられるのか？
答は一つではないのですが、私は最近、人生その他の音楽的なものではないかと感じる事が多いです。
人間は個々に個性を帯び、また個々の個性は絡れ合いながら日々生きています。
人間中、この世の中はこうあるべきだとか、嬉しい！ 面白い！ 悲しい！等、その瞬間瞬間に人は何かに
感動、発音させています。
その感動、発音を響き、アレーゴにしたものが「音楽」ではないでしょうか。
彼に、嬉しいとかおもしろさだったり、悲しければ涙が流れて泣き声を発したり...

それは昔に生きた偉大な作曲家達、バッハにしろ、ベートーヴェンやショパン、シューマン、スクリュー
ピン等、近代作曲家を継ぎ、響きを通じて現代を生きた私達に共感に感じられる思考や思いなのです。
この時代を越えた「共感」こそが音楽の本質ともいえるので、「共感」であると覚えています。
私達の門下生演奏会では、その共感を感動として表現できるように一番大切にしていたことがおもしろ
いと思います。

作曲家達が様々な感情や思考を突き動かされた人々を介して、「共感」として渡したその「思い」に
誠心誠意向き合い、今日この瞬間に響いて下さっている皆様は、生徒一人一人の演奏を通して
それが少しでも伝わればと願っております。

そして今回は、生徒達に特別入りして私達も演奏で参加させていただきます。
ベートーヴェンをこよなく尊敬してやまなかったシューベルトですが、ベートーヴェンが亡くなった
1827年に彼を巡りように一年後、31歳という若さで亡くなる1828年、最後年に作曲された「夜曲集」、
シューベルトが人生最後の瞬間にどんな事を思い込んでいたのか... それを皆様と一緒に体験、
共感出来れば幸いです。

今回の演奏会は私達だけでなく素晴らしい先生方のご指導の共同チームであり、プログラムには
その先生方のお名前も載せていただきました。

この1年間の成果、そして来年度に向けての期待も込めて観か見守って下さいますようお願いいたします。

清水皇樹
清水敦子

2021年度 演奏活動報告

高藤 摩紀

今年度行った演奏活動のうち、主だったものを報告いたします。

9月11日 リリオコンサートホール

リリオ×Meion やっぱり打楽器っておもしろい！

ナゴヤマリンバアンサンブル コンサート

出演：高藤摩紀、境祥子（本学プリヴィレッジレッスン教員）

名古屋音楽大学打楽コース学生

曲目：Astor Piazzolla. Tango Suite

Eric Zak Chasing the Caribou 他

12月24日 三井住友しらかわホール

Qaiff Orchestra Live Concert

出演：Qaiff、名古屋音楽大学管打楽器教員、卒業生、学生

曲目：変わって、Wonderful Life、Meaning of Me 他

1月21日 マリオットアソシアホテル

インドネシア名誉領事就任祝賀会

出演：Gamelan Sekar Sakura

曲目：Gopala 他

3月15日 めいおんホール

A Night of Meion Percussion with Unheard Music by Meion Composers

出演：高藤摩紀、清原緋七季、西村雅、松野弥咲、亀山佳音

河村総志、高藤縁

曲目：高橋裕 混元

武野晴子 3 Shapes for Marimba

林卓然 百鬼夜行 夕嵐

大石彩音 人魚の歌

今年度もコロナ禍から抜け出すことは叶わず、来日予定だった海外アーティストとのコン

サートは開催出来なかった。

リリオコンサートホールでのコンサートは、プリヴィレッジレッスン教員の境祥子先生とのデュオを演奏した。学生達と同じステージに立ち、コンサートを作り上げることができたのは、学生達にとっても良い経験になったと思う。

Qaiffのコンサートでは、活躍している卒業生が、母校のオーケストラと共演し、現在のめいおんの教員、学生、卒業生と共演する事で、学生達にとっても将来の目標を見出したりすることができたりして、いい機会だったと思う。

インドネシア名誉領事就任祝賀会での招待演奏では、駐日インドネシア大使ご夫妻や、大村愛知県知事、河村名古屋市長にも聴いていただき、とても喜んでいただけた。

めいおん作曲コースとのコラボレーションコンサートでは、作曲コースの教員と学生が打楽器アンサンブルとエレクトロニクスのための作品の新作を一年がかりで計画してきた。

お互いに新たな発見もあり、斬新なコンサートになると思う。

2021年度 演奏・研究活動報告

露木 薫

演奏活動（2021年1月～12月）

☆Meion British Brass 第2回定期演奏会

2021年3月1日（月） アートピアホール（名古屋市青少年文化センター） 18:00開演

名古屋音楽大学のサークルとして活動しているMeion British Brassの主な活動となっている学外での定期演奏会を開催した。第2回目この演奏会ではSparke：宇宙の音楽をメインに、上田じん先生のBellstedt：ナポリ（Cornetソロ）、露木薫のSarasate：ツイゴイネルワイゼン（Euphoniumソロ）、西森沙弥のArlen & Harburg：オーバー・ザ・レインボー（Tenor Hornソロ）、本学卒業生でトロンボーンのメンバーでもある山口珠早紀さんによる委嘱作品『薔薇の花束』などを含め、8曲を演奏した。コロナ禍で活動が制限された中、「仲間と演奏ができる」「お客様の前で演奏ができる」という今まで当たり前だった事の有難さと喜びを感じる演奏会となり、2020年度の活動の集大成となった。

☆ユーフォニアム・テューバ・アンサンブル～金管楽器重低音の魅力～

2021年3月7日（日） 中村文化小劇場 13:00開演

中村区役所と名古屋音楽大学が主催する演奏会で本学の地域貢献事業の一つ。当初2020年の同時期に開催予定であったが新型コロナウイルス感染防止の観点から延期となったもの。

名古屋音楽大学のユーフォニアム・テューバ専攻生、卒業生、研究生16名と教員4名の出演によって4重奏と5重奏が中心のプログラムを7曲演奏した。プログラム最後にはユーフォニアム：露木薫、仲田歩、テューバ：亀山吉彦、林裕人の教員4人によるA. Frakenphol：Pop Suiteを披露した。地元の一般の方々に普段あまり馴染みのない金管低音楽器によるアンサンブルを楽しんで頂いた。

☆マスターズ・ブラス・ナゴヤ 第5回定期演奏会 指揮：鈴木竜哉

2021年4月25日（日） 愛知県芸術劇場コンサートホール 15:30開演

マスターズ・ブラス・ナゴヤは2016年に結成された東海地区のオーケストラ奏者、音楽大学の講師、フリーランス奏者によって構成される吹奏楽団である。吹奏楽が持つ魅力の一つである“音楽を楽しむ”をコンセプトとし、『伝統と革新』を追求し、さらなるクラシックファンの裾野を広げることを目的として活動している。第5回の定期演奏会では、

伊福部昭（編曲：福田滋）SF交響ファンタジー第1番、三枝成彰（編曲：長生淳）交響組曲「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」、すぎやまこういち（編曲：真島俊夫）交響組曲「ドラゴンクエストⅧ 空と海と大地と呪われし姫君」より抜粋という曲目を取り上げ、その内の「機動戦士ガンダム」と「ドラゴンクエストⅧ」より、の演奏に参加した。日本が誇る映画音楽とゲーム音楽の傑作を吹奏楽による演奏で、ご来場頂いた観客の方々にご堪能頂いた。

☆マスタース・プラス・ナゴヤ 彦根特別公演

2021年10月10日 彦根市文化プラザ グランドホール 15:30開演

この公演は4月25日に行った第5回定期演奏会の追加公演として実施されたが、奇しくも2021年9月30日に逝去された、すぎやまこういち氏を偲ぶ公演となり、演奏者、聴衆全員で黙祷を捧げての演奏となり意義深い公演となった。曲目は定期演奏会で取り上げた、三枝成彰（編曲：長生淳）交響組曲「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」の代わりに、鷺巣詩郎（編曲：天野正道）「エヴァンゲリオン」ウィンドシンフォニーより を取り上げた。日本の代表的な映画やゲームの音楽を吹奏楽という形態で多くの方々に楽しんで頂く事が出来た。

☆Meion British Brass めいおん音楽祭公演

2021年10月31日（日）名古屋音楽大学D-101 13:00開演

新体制となった学生役員主催によるMeion British Brassの今年度最初の本番となった。

プログラムは吹奏楽やブラスバンドで人気の高い作曲家P.Grahamの本格的作品Northern Landscapeの他、恒例となった上田じん先生のCornetソロでB.May: The Green Beeや親しみやすい曲目としてDisney FantasyやCuteなど計6曲を演奏した。新型コロナウイルス感染防止の観点から夏期の活動を自粛し、9月下旬からの練習再開という限られたリハーサル回数ではあったが、今年度のMeion British Brassの新しいカラーを創り出すことが出来た演奏会となった。

研究活動

今年度の研究活動の一つとして、前年度より引き続きマウスピースの研究を行った。新たに購入して試してみたマウスピースは以下の2つである。

Brass Lab. MOMO（日本製）「采」、「AKIRA」この二つは制作注文者である、佐藤采香の「采」アヤと木村玲の「AKIRA」アキラがモデル名になっている。佐藤采香は東京藝術大学・大学院、ベルン芸術大学スペシャライズドソリスト修士課程修了、木村玲は愛知県立芸術大学を卒業した、二人とも優秀な現役のユーフォニアム奏者である。

2021年度 演奏・研究活動報告

中川 朋子

2021年5月15日（土）開演19:00 場所：ハーモニーホールふくい 小ホール

めいおんFukui第14回演奏会（第1部・第2部・第3部）

主催：名古屋音楽大学同窓会 福井支部

出演（第3部） ピアノソロ：中川朋子

ピアノ連弾：中川朋子、佐藤恵子氏

プログラム

リスト 巡礼の年 第1年「スイス」より オーベルマンの谷

ドヴォルザーク スラヴ舞曲 Op.46-1

この演奏会は同窓会福井支部の皆様の継続的なご尽力により、今回で14回目を迎える。

しかし、この時期コロナの感染者数が拡大中であり、当日、佐藤恵子氏は大学のコロナ対策の為、誠に残念ながら急遽、出演辞退となり連弾は中止となった。

人数制限など対策を講じて、同窓生出演の1部2部そして3部も含めコンサートは無事に開催された。おかげ様で私も「オーベルマンの谷」をお客様にお聴き頂く事が出来、関係者の皆様のご協力に深く感謝を申し上げたい。

2021年12月22日（水）開演19:00 場所：名古屋・伏見・電気文化会館

ザコンサートホール

中川朋子ピアノリサイタル（ピアノソロ：中川朋子）

プログラム：

リスト 巡礼の年 第1年「スイス」

1. ウィリアム・テルの礼拝堂 2. ワレンシュタットの湖にて 3. パストラール
4. 泉のほとりで 5. 嵐 6. オーベルマンの谷 7. 牧歌 8. 望郷 10. ジュネーヴの鐘

リスト ピアノ・ソナタ短調

前半のプログラム、巡礼の年 第1年「スイス」の原型は、1842年に出版された「旅人

のアルバム」。リストはマリー・ダグー伯爵夫人と共に旅したスイスでの体験をもとに、1835年から1836年にかけて作曲し、それらの作品は3部19曲の曲集「旅人のアルバム」に収められていた。1847年ピアニストを引退したリストはこの曲集を1848年から大幅に書き直し改編の後、1855年に新作の「嵐」を加えて全9曲の新たな曲集として完成させた。この作品には個人的感情の告白、自然との一体感、自由、夢の希求などロマン主義の思考が込められ「スイス」の9曲中ほとんどに文学的な標題が付けられ、より明確にリストのイメージへと導かれる。

1. ウィリアム・テルの礼拝堂

ルツェルン湖畔に佇むウィリアム・テルゆかりの小さな礼拝堂。リストはこの地を訪れ、スイスの独立に想いを馳せた。この曲の冒頭に「皆のための一人、一人のための皆」と、リストは記している。この言葉は古くからスイス統一と団結のスローガンであり、スイス建国の勇士を描いたシラーの戯曲「ウィリアム・テル」（1804年作）を連想させる。自由を求める伝説の英雄ウィリアム・テルの闘志を讃え、荘厳な曲調が展開されている。

2. ワレンシュタットの湖にて

標題は、バイロンの旅人の心情を綴った物語詩「チャイルド・ハロルドの遍歴」第3巻のスイスを詠んだ章から引用されている。詩の一節は「私が住む荒き世とは対称的な湖は、清き汝の為に世の乱れた水を捨てよと、その静けさで私を諫める」。マリー・ダグー伯爵夫人との逃避行のさなか、訪れたワレンシュタット湖畔での心象風景が描かれている。

3. パストラール

パストラールとは牧歌的な音楽を意味する。この曲には標題はなく、スイス北東部の牧草地帯アッペンツェル地方の羊飼いの歌とされる素朴な旋律が採り入れられている。

4. 泉のほとりで

ドイツ詩人・シラーの詩から「躍動は醒めた眩きから始まる」が記されている。こんこんと湧き出す泉。その水の冷たさ、清らかな煌めきまでも感じさせる魅力的な作品として広く知られている。

5. 嵐

1855年に作曲された。標題は「チャイルド・ハロルドの遍歴」から。詩の一節は「おお嵐よ、いずこに汝の果てはあるのか、汝は人間の胸の中にあるものか、鷲のように高みに巣を持つのか」と言うもの。激情を嵐の凄まじさに重ね合わせた技巧的な作品。

6. オーベルマンの谷

「オーベルマンの谷」はスイスでの実体験からのものではなく、セナンクールの小説「オーベルマン」をもとにしている。冒頭には小説「オーベルマン」からの書簡文と「チャイルド・ハロルドの遍歴」から詩の一節が引用されている。小説「オーベルマン」は、苦

悩める主人公オーベルマンが孤独を求めてアルプスを放浪し、スイスの自然に身を委ね、その心情を綴った書簡として著わされている。リストはこの小説に心酔し、スイスを舞台にした作品であった事から「オーベルマンの谷」と題して曲集に組み入れた。絶望からの葛藤が展開される「オーベルマンの谷」はこの曲集の中核をなす大曲。

7. 牧歌

「旅人のアルバム」には含まれていなかったが、1835年から1836年の作品。スイスの羊飼いの歌とされる旋律が採り入れられ、理想郷のように、陽に輝くのどかなアルプスの情景を想わせる。この曲にもバイロンのスイスを詠んだ詩が添えられている。

8. 望郷

冒頭、小説「オーベルマン」からの一章が引用されている。この章で主人公オーベルマンはアルプス田園地帯への愛着と深まる郷愁をパリからの書簡で切々と訴えている。楽園を求める孤独な魂の告白が、郷愁を誘うアルペンホルンの旋律を伴って表現されている。

9. ジュネーヴの鐘

初稿はジュネーヴで誕生した長女に捧げられたとされる。バイロンの詩の一節「私は自らの中に生きず、私の周りにあるものの一部に生きる」との思いを込めたリストの愛の歌。歓びの時を告げるように響く鐘の音を背景に、穏やかで安らぎに満ちたリストの心情が描かれている。

後半のプログラムは、リスト：ピアノ・ソナタ ロ短調。

リストは75年の生涯で多くの作品を残したが、ソナタと題するものはこの「ピアノ・ソナタ ロ短調」のみ。この作品の構想は1849年に始まり、1852年から1853年にかけて作曲された。自筆譜には1853年2月2日と記されている。名ピアニストとして活躍していたリストは転身し、1848年ヴァイマールの宮廷楽長に就任した。この作品は指導者そして作曲家として最も充実した時期に作曲され、1854年に出版された。リストはシューマンの大作「幻想曲 ハ長調」への返礼として、この意欲作の「ソナタ」を捧げた。「ピアノ・ソナタ ロ短調」は伝統的なソナタ形式ではなく、中断せず最後まで演奏する単一楽章で構成されている。全体としては3部分からなり、基本主題が再現と変容を繰り返しながら展開される。この作品に対しワーグナーは「偉大にして優美、荘重で高貴」と絶賛した。しかし、一見、幻想曲風でありながらも斬新なスタイルのソナタであったことから、作品発表時は賛否両論が繰り返された。研究が深まると共に真価は再認識され、今日この「ピアノ・ソナタ ロ短調」は緻密な構成力による19世紀の画期的な「ソナタ」と位置づけられ、高く評価されている。革新的で円熟したリスト作品の真髄とも称される難技巧を要する大曲として名高い。

リスト作品の奥深さを改めて実感し、今回のプログラムは私にとって、かなりの集中力を要した。今思えば、感染者数が最も落ち着いていた時期にリサイタルを開催出来、お客様にも喜んで頂けた事は誠に幸運であった。

普通の日常が戻る日、一日でも早いコロナ終息を願うばかりである。

2021年度 研究活動報告

橋本 眞介

バスクラリネットアンサンブルの編曲と新しいレパートリーの開拓

ちょうど1年前の今頃、8本のバスクラリネットが一斉にハーモニーを奏でたらどんな響きがするのだろうか？と考え始め、1人で多重録音するもピンとこない。気がつけば東海地方にいる優秀なバスクラ奏者達に連絡をしていました。

オーケストラや吹奏楽の分野で活躍する者、バスクラコンクール of 覇者、プロフェッサー、皆が即賛同して頂き、最初のリハーサルで一斉に音を出した瞬間、追い求めていたバスクラアンサンブルの重厚なサウンドが部屋一杯に広がり幸せな気持ちになりました。

バンドでは「ドソドソ」と刻んでいる伴奏楽器、ベースでのロングトーンばかり、といったバスクラのイメージがあるでしょうが、オーケストラではソロ楽器として扱われ、多くの作曲家が曲中にバスクラにしかできない役割を与えてくれています。近現代では多くのオリジナル曲が生まれ、ソロ楽器として地位を確立され、可能性を見出してくれています。

バスクラリネット8重奏の為のオリジナル曲が無い為、自力でアレンジするしかありませんでした。しかし世の中には合唱曲、弦楽合奏等、数々の名曲が存在し、それらを紹介するチャンスでもあります。合唱や弦楽合奏に匹敵するくらいのバスクラの持つ豊かな音色と倍音。このバスクラサウンドをまず自らが聴きたくなり以下の曲を編曲しました。

《バスクラリネット8重奏の曲目解説》

①S・プロコフィエフ：オペラ『三つのオレンジへの恋』よりマーチ

オペラから6曲を選び抜き、組曲として1919年に作曲家自らがアレンジ。この組曲版は今日演奏会で取り上げられることが多く、またその中の行進曲は単独でも演奏されることもある。

②P・ウースベルク：Õhtul

エストニアの若手作曲家Pärt Uusbergの合唱曲。作曲エストニアはバルト三国の最も北に

位置する北欧の国。題名となった Öhtul の意味は夕暮れ。青い透明な夕暮れ、優しい闇の降りてくる幕開け、柔らかなフォルテで歌われる夕日の残照はやがて静かな星の煌めきへ…といったイメージのとっても美しい曲。お疲れの一日の締めくくりに聞きたい音楽である。

③P・ウォーロック：「カプリオール組曲」

イギリスの作曲家ウォーロック（Peter Warlock）の最もよく知られた作品で特に弦楽合奏では有名なレパートリー。このカプリオール組曲はT・アルボが1588年に出版した舞踏体系に掲載された舞曲を元に組曲にしたもの。16世紀ルネッサンス時代の舞曲集から6つに纏めたもので曲は自由に改変されモダンな和声も出てくる。

I. バスダンス：フランス語で「低い踊り」の意味で、男女のペアが行列を作って、抑圧された雰囲気の中踊るもので、足を床に滑らせながら踊ったそうです。

II. パヴァーヌ：2拍子の曲で、威厳のある行列で男女のペアの踊り手が会場を2.3周、回るまで演奏されたそうです。

III. ブランル：フランス語で「揺れる」というが語源。いろんな階級で踊られ、男女が輪になって左回りに踊る、いわゆるワルツで、とても陽気な誰しものが楽しめる舞曲だったそうです

IV. ピア・アン・レール：ダンスの中の単語「重心を片脚にかけた際に残った空中にある方の足」が題名になりました。どこか地に足がつかないような、着きそうでつかないようなフワフワした感じがあります

V. マタシャン-ソード・ダンス：古代ギリシアの戦いの舞「踊り手たちは小さな銅鎧をつけ右手に剣、左手に盾を構える。2拍子の踊りで、剣と盾がガチガチなる音を伴うといったもの

④E・ウイティカー：Sleep

アメリカの作曲家ウイティカーの合唱曲。彼は吹奏楽の分野でもゴーストトレイン等で知られている。ゆったりしたコラール風な曲で静かに開始され、次第に高まっていき最後にSleep…Sleep…と何度も繰り返され夢の中へ消えていきます。全体を通して非和音がふんだんに使われ、音がぶつかり合うことがこんなにも美しく尊いと感じさせる名曲。

⑤F・プーランク：おお！大いなる神秘

20世紀中盤に活躍したフランスの作曲家プーランクは、色々な楽器のために沢山の曲を作っていますが、その中でも声楽作品は重要な位置を占めています。この「クリスマスのための4つのモテット」という無伴奏の合唱曲はプーランクのこの分野の代表的な作品。

全体にひっそりと歌われ、静かで神秘的なクリスマスの雰囲気伝えます。

⑥M・アーノルド：4つのスコットランド舞曲

1957年、アーノルドがイギリスのBBC放送が主催したライト・ミュージック・フェスティバルのために作曲した。原曲は管弦楽曲で第2楽章Vivace。快活なテンポのリール（4/4拍子の舞曲で、スカンジナビアからスコットランドに移入された速い曲）で、同じ旋律が繰り返されるたびに半音ずつ上がりののが特徴です。

⑦M・ルグラン：キャラバンの到着

1967年に公開されたフランスのミュージカル映画「ロシュフォールの恋人たち」の中の挿入曲として、この映画の音楽を担当したM・ルグランによって作曲された楽曲。映画の中では楽曲のタイトルどおりに、お祭りでショーを行なうキャラバンが映画の舞台であるフランスの港町に到着するシーンで使われている。テンポの速い躍動的なジャズワルツのメロディーが印象的な楽曲であり日本ではCM曲として使用されたこともあってタイトルまで知っている人は少ないけれど多くの人の耳に残っている楽曲である。

⑧L.v. ベートーヴェン：ピアノソナタ第8番より「Adagio cantabile」

ベートーヴェンの書いた最も有名な楽章の一つ。ある人はこの楽章のために「ハープシコードの所有者は最寄りのピアノ屋に駆け込んだに違いない」と述べたくらい、美しく物憂い主題が静かに奏で始められる。

以上の編曲を用いて演奏会を行う予定にしている。

2021年度 研究活動報告

森 雅史

- 2月19日（金） オペラ『カルメン』 会場：石川県立音楽堂交流ホール
共演：清水のりこ、鳥木弥生、村上公太、石川公美ほか ズニガ役
- 2月20日（土） 午後のコンサート 会場：サンビーム日和が丘ホール
共演：清水のりこ、鳥木弥生、村上公太、石川公美ほか
- 3月9日（火） オペラ『おしち』池辺晋一郎作曲 会場：石川県立音楽堂能楽ホール
オーケストラアンサンブル金沢 出演：幸田浩子ほか 火刑執行人役
- 4月25日（日） ロームミュージックフェスティバル リレーコンサートC
器楽歌手と歌手によるモーツァルトガラコンサート
司会：朝岡聡 出演：鷺尾麻衣、三浦友里枝、浜野与志男、磯絵里子、
赤坂智子ほか、会場：ローム・サウスホール **コロナウィルスの為有料
ライブ配信**
- ※なお本公演出演に際し、モーストリークラシック（雑誌全国区）に取材を受け、特集として取り上げられている。
- 4月30日（金） 金沢 風と緑の楽都音楽祭 高岡公演『南欧の風にのって オペラアリアの世界』
会場：高岡市生涯学習センターホール 共演：小泉詠子、山本有紀子、田島睦子
- 5月3日（月） 金沢 風と緑の楽都音楽祭 オペラ紅白歌合戦
会場：石川県立音楽堂コンサートホール 兵庫県立芸術劇場オーケストラ（PAC）
白組司会と歌唱を担当。 共演者：田中祐子、辻博之、笛田博昭、糸賀修平、腰越満美、鳥木弥生ほか、日本を代表するオペラ歌手が出演 審査委員には、池辺晋一郎、広上淳一ほか

- 5月4日（火） 金沢風と緑の楽都音楽祭 『狂詩曲 スペイン』
会場：石川県立音楽堂コンサートホール 兵庫県立芸術劇場オーケストラ（PAC）
指揮：辻博之 オペラアリアの歌唱
- 5月4日（火） 金沢 風と緑の楽都音楽祭 オペラ『蝶々夫人』ハイライト
会場：石川県立音楽堂コンサートホール オーケストラアンサンブル金沢
指揮：田中祐子 共演：腰越満美、糸賀修平 ボンゾ訳で出演
- 5月5日（水） 金沢 風と緑の楽都音楽祭 古関裕而コンサート
会場：石川県立音楽堂能楽ホール 陸上自衛隊中部方面音楽隊
共演：鶴真衣ほか
- 7月17日（木） 佐渡裕プロデュースオペラ 『メリー・ウィドウ』
会場：兵庫県立芸術文化センター大ホール 兵庫県立芸術文化センター管弦楽団
兵庫プロデュースオペラ合唱団 指揮：佐渡裕 演出：広渡勲 共演：桂文枝 高野百合絵、黒田祐貴、高橋唯、折江忠道ほか クロモウ役
- 7月18日（日） 佐渡裕プロデュースオペラ 『メリー・ウィドウ』
会場：兵庫県立芸術文化センター大ホール 兵庫県立芸術文化センター管弦楽団
兵庫プロデュースオペラ合唱団 指揮：佐渡裕 演出：広渡勲 共演：桂文枝 高野百合絵、黒田祐貴、高橋唯、折江忠道ほか クロモウ役
- 7月21日（水） 佐渡裕プロデュースオペラ 『メリー・ウィドウ』
会場：兵庫県立芸術文化センター大ホール 兵庫県立芸術文化センター管弦楽団
兵庫プロデュースオペラ合唱団 指揮：佐渡裕 演出：広渡勲 共演：桂文枝 高野百合絵、黒田祐貴、高橋唯、折江忠道ほか クロモウ役
- 7月24日（土） 佐渡裕プロデュースオペラ 『メリー・ウィドウ』
会場：兵庫県立芸術文化センター大ホール 兵庫県立芸術文化センター

管弦楽団

兵庫プロデュースオペラ合唱団 指揮：佐渡裕 演出：広渡勲 共演：
桂文枝 高野百合絵、黒田祐貴、高橋唯、折江忠道ほか クロモウ役

8月28日（日） オペラ『カルメン&滝の白糸公演』 **コロナウィルス流行の為 延期**
会場：高岡市生涯学習センター—共演：清水のりこ、鳥木弥生ほか

10月29日（金） 名古屋音楽大学 めいおん音楽祭 声楽教員コンサート
会場：めいおんホール
企画・運営・出演 共演：伊藤晴、荻野砂和子、小林史子、相可佐代子、
近野賢一ほか

10月30日（土） 雅亮会コンサート
父兄の為のトークとコンサートを担当

10月30日（土） めいおん音楽祭 トラットリア・ディ・カント
会場：Doホール 門下生を主体としたオペラシーン・ガラコンサート
司会と指導に携わる

12月2日（火） La Festa della Voce(声の饗宴)
指揮：松下京介 東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団
共演：森谷真理、小川里美、藤井麻美、沢崎一了、大槻孝志、上江隼人ほか、
日本を代表するオペラ歌手陣とのガラコンサート

12月11日（土） クリスマスコンサート
会場：金沢市アートホール 共演：田島睦子、鳥木弥生、石川公美、与
儀巧ほか

【総括】

2021年度の一番大きな成果としては、20年度に申請した科研費が採択されたことを挙げたい。これは、二度目の採択であり、期間を空けずに連続での採択である。これは、音声の可視化システムを構築し、声楽指導の質の向上と国際的・グローバルなリソースを安価に実施する事を視野に入れた研究で、日本で唯一の劇場トーンマイスターである東京芸術劇場所属石丸耕一氏の協力のもと、実際にシステムを用いてレッスンを実施し

ており、学生達からは大きな反響を得ている。こちらのシステムに関しては特許出願の準備中であることを記載しておきたい。

また、国際芸術祭あいち2022年度公募プログラムに申請し、メイン公演のひとつのステージを獲得できたことも挙げておきたい。これは、前回のトリエンナーレ2019に続き、私が発案し採択されたものだが、広報的な側面からも、学生に実践的な学びの場を提供できるという意味でも、評価に値することだと思う。声楽関係の舞台は費用もかかるため、可能な限り外部資金を獲得した上で公演に結び付ける努力をしており、この度の申請も前回のトリエンナーレ2019公募プログラム採択や大幸財団からの助成を獲得していることの延長ではあるが、このままオーケストラ伴奏によるオペラ公演が実施できないことは声楽コースとしても本意では無い為、今後も外部資金の獲得には積極的に動きつつ、周囲の理解を得てオペラ公演を実施するまでの努力を継続して行きたい。科研費とは異なるが、声楽コースが中心となりながら、様々な部署と連携を取り、こうした外部資金を獲得していること記載しておく。

演奏面では、佐渡裕プロデュースオペラに出演できたことは大きな収穫であり、日本を代表するオペラ歌手陣の他に、桂文枝さんや香寿たつきさんなど、芸能、ミュージカル関係の第一線で活躍されている方々との共演は大変学ぶべきことも多く、4公演という贅沢で充実したプロダクションに招いてもらえることは、自身の演奏家としての資質の評価と捉えている。

自身がローム・ミュージックファンデーション研究生だったこともあり、4月にはローム・ミュージックフェスティバルで、モーツァルトガラコンサートに出演したが、アンサンブルのメンバーが国内外で活躍する器楽奏者で、有料のライブ配信ということ、とても貴重な経験となった。

『金沢 風と緑の楽都音楽祭』では、オペラ紅白歌合戦の紅組司会を務め、日本を代表するオペラ歌手陣と一緒に舞台に立てたことは、自身の歌唱へのアプローチを見直す上で大変参考になった。

めいおん音楽祭では、声楽教員コンサートの企画、構成、歌唱を行ったが、歌唱に専念することが出来たならばと悔やまれる。しかしながら、門下生が自主的に演奏の機会を企画し、その指導に携われたことは大きな喜びであり、今後の発展のさせかた等、学生への実践的な学びの提供の方法についてアイデアが浮かんでいるので次年度以降も実現させていきたい。

コロナウイルス流行の影響はまだまだあるにも関わらず、国内でも大きなプロダクションに携わり、最も活躍している演奏家達と舞台と一緒にする機会を多く得られたことは幸いだったと思う。こうした経験で得た知識や技術はどんどん学生に還元していきたい。